

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2010

課題番号：19330085

研究課題名(和文) ホワイトカラーの専門性と公的資格の研究

研究課題名(英文) Research of Job-Specialty for White-collars
and Public Qualifications

研究代表者

宮下 清 (MIYASHITA, Kiyoshi)

首都大学東京 社会科学部研究科・教授

研究者番号：50239399

研究代表者の専門分野：経営学、人的資源管理

科研費の分科・細目：経営学・経営学

キーワード：ホワイトカラー、公的資格、日米英比較、専門性、人事担当職、MBA

1. 研究計画の概要

・研究目的

ホワイトカラーの専門性とその外部評価制度である公的資格の現状と課題を、英米など先進諸国との比較研究を通し、明らかにし、関連する専門性や人事施策等を考察する。

- (1) 企業組織のホワイトカラー職務を中心に、組織が求める専門性の内容を明らかにする。
- (2) ホワイトカラー職務を対象とする公的資格の現状とあるべき姿を考察し、示唆を得る。
- (3) 日英米の組織や職務を比較検討し、専門性と公的資格の差異や統合の可能性を探る。
- (4) 専門性と公的資格に関わる組織・人材の諸問題を検討し、有益な示唆を得る。研究プロセスから、(2)(3)に優先的に取り組む。

・研究計画

(1) 2007(H19)年度：

文献と予備的ヒアリングと国内調査、

(2) 2008(H20)年度：

日本での調査から、専門性と資格、経営戦略とHRM、個人の認識・価値観、組織文化、キャリアの関連を明らかにする。専門性と資格の関連文献による情報収集と米英調査準備の実施。

(3) 2009(H21)年度：

(1) 米英組織への調査から、専門性と資格、経営戦略とHRM、個人の認識・価値観、組織文化、キャリアの関連を明らかにする。米英の公的資格制度の調査から現状、課題を分析、あるべき姿を明確にする。

(4) 2010(H22)年度：

調査結果を総合的に分析、報告書の作成、

学会発表とする。専門性、経営・HRM施策との関連、個人への影響、国際比較の結果、人的資本の評価など理論化・普遍化を図ると共に、実践的成果を最終報告書および専門書としてまとめる。

2. 研究の進捗状況

これまでの3年間、研究の進捗状況はほぼ予定通りといえる。まず初年(2007)度には文献研究、日米英でのヒアリング調査に加え、ホワイトカラー400人への調査を行い、基礎となる情報収集を行うことができた。2年目(2008)にはヒアリングや関連文献から、英米組織での資格の活用状況や公的資格制度の理解を深めた。

3年目(2009)は、全体の中核となる日米英調査の企画・実施を行うことができた。これは日米英のホワイトカラー(1200名)を対象にした調査で、その調査票設計、質問項目決定、英訳、質問票の完成、実施委託、集計後の確認と分析の一部までを実施することができた。

これらの進捗を通し、研究目的や前提等の再検討を行い、調査対象としての人事資格の決定やMBA等ビジネス系修士学位を調査対象の公的資格と設定したことは、新たな成果である。さらに、ホワイトカラー資格の必要性が高いと思われる非正規ホワイトカラー300名への調査も実施し、関連する情報収集を行うことができた。

英米での研究・調査の蓄積も調査に活かし、関連人材のネットワーク(オックスフォード

大教授主宰の英国知識技能会議 (SKOPE) 研究会) を得たことも研究成果の一つといえる。

これまでの文献や調査結果の一部を学会発表や論文にまとめることができたが、本格的な成果公表はこれからである。また、現段階では、新たに絞られた目的や具体的な研究にフォーカスした文献調査は少なく、調査結果の分析もまだこれからといえる。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

(理由)

これまでの3年間、コンスタントに研究会を開催し、毎年の計画に基づく目標を設定し、取り組んできている。とくに重要となる調査については、予定通り実施できていること。ただし、各メンバーの連係を生かした調査分析や文献調査については、現段階では十分にできているとはいえない。

4. 今後の研究の推進方策

日米英ホワイトカラーへの本調査実施により、データ収集はほぼ完了し、今後はその分析とそれを踏まえての報告書作成に取り組む。当初は広く捉えていた文献を絞り込み、報告書につながる先行研究とすることも今後の推進課題である。

3年間の研究をふりかえり、文献を再度整理し、先行研究をまとめると共に、調査結果の分析に取り組むことが今後の研究の推進方策である。これにより、報告書の作成とその後の研究図書出版を目指したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計14件)

①宮下 清、「ホワイトカラー公的資格の現状と課題—日米人事資格の比較考察を中心に—」、『人材育成研究』、第4巻、63-80、2009、査読有

[学会発表] (計11件)

①宮下 清、中山 健「ホワイトカラー公的資格の現状と社会的意義」、日本経営学会第83回大会、九州産業大学、2009年9月3日

②宮下 清「英米の人事資格比較にみる日本ホワイトカラー資格の意義と展望」、教育研究欧州会議、スウェーデン・ヨーテボリ大学2008年9月11日

(Kiyoshi Miyashita, "Significance and Prospect of Japan's Qualifications for

White-Collar Workers in comparison to Personnel Qualifications in the UK and USA", ECER 2008 Gothenburg, The European Conference on Educational Research in Gothenburg, Sweden, Sept. 11, 2008)

欧州教育研究学会 (European Conference of Educational Research 2008) での報告に関する URL: http://www.vet-research.net/ECER_2008/sep11/session_5b/267

③宮下 清「日本のホワイトカラー公的資格の考察—米英の人事資格との比較より—」人材育成学会第6回年次大会、慶応義塾大学湘南藤沢、2008年12月2日

④宮下 清「経営教育をかける日本のホワイトカラー公的資格」アメリカ経営学会年次大会、フィラデルフィア、2007年8月6日 (Kiyoshi Miyashita, Japan's Public Qualification for White-Collar Workers Change Management Education 2007 Annual Meeting of the Academy of Management Pennsylvania Convention Center, Philadelphia, USA, August 6, 2007.)

[図書] (計2件)